

神奈川大学建築学研究執筆規程

2023 年 07 月 31 日

1. 名称

本誌の名称は、和文名で『神奈川大学建築学研究』、
英文名で『Reports for Architecture and Building
Engineering, Kanagawa University』とする。

2. 目的

本誌は、本学で建築学分野の研究を行う学部・大
学院研究科および研究所・センター等組織の記事を
掲載する建築学系の機関誌であり、各組織の事業お
よび研究の成果を公表することを目的とする。

3. 運営および原稿の採否

本誌の編集・発行および原稿の採否は、建築学部
広報委員会および建築学研究所所報編集委員会が合
同で組織する神奈川大学建築学研究編集委員会（以
下、編集委員会という）が行うものとする。

4. 投稿資格

本誌に対する投稿資格は、以下（１）～（６）に
該当する者がこれを有する。ただし、（５）に掲げる
者および（６）で原稿執筆を依頼する学外者につい
ては、編集委員会が定める執筆承諾書を建築学研究
所へ提出することにより、建築学研究所への原稿の
著作権の譲渡に同意すると共に、神奈川大学研究倫
理綱領（以下、倫理綱領という）の遵守を誓約する。

（１）本学建築学部の教授、准教授、助教、助手お
よび教務技術職員

（２）建築学部以外に所属する本学専任教員で建築
学分野を専攻する教授、准教授、助教および助手の
うち、建築学研究所所員として登録されている者

（３）建築学部以外に配属されている本学教務技術
職員で、前号に掲げる建築学研究所所員と共に建築
学分野の研究や業務にあたる者

（４）建築学研究所共同研究または建築学研究所プ
ロジェクト研究に研究分担者として参画している研
究所客員教授、客員研究員、特別研究員

（５）前号に掲げる研究分担者以外の者で、建築学
研究所共同研究または建築学研究所プロジェクト研
究に研究分担者として参画している外部機関（大学、
研究所、企業等）に所属する者。

（６）その他、編集委員会から原稿を委嘱された者。

5. 記事の区分

本誌が掲載する原稿（以下、記事という）は報告
書としての性格を持つものとし、原著性を要求しな
い。記事の種類は、以下（１）～（１３）の通りと
する。

（１）論説

学問・技術・建築学系各組織の事業・動向等に関
する論説、意見を綴った記事である。原則として 4
頁。

（２）総説

特定の分野や主題について、関連する文献や資料
に基づいて総括的に論評した解説的色彩の強い記事
である。原則として 4 頁。

（３）受賞研究の紹介

第 4 条に掲げる投稿資格を持つ者が所属学会等
から顕著な功績のあったことを評価された研究や業
績について紹介した記事である。前年度に受賞等の
対象となった研究や業績の内容を要約する。原則と
して 4 頁。

（４）建築学科教育・研究費重点配分採択研究報告

神奈川大学より学部特別予算として学科重点配分
採択を受けた研究の報告書である。採択年度から 2
年間で得られた成果を要約する。原則として 2 頁。

（５）科学研究費間接経費を資源とする研究報告

神奈川大学建築学部教員が獲得した科学研究費の
間接経費より助成を受けて実施した研究の報告書で
ある。原則として 2 頁。

（６）私学助成関連研究報告

国や地方自治体等所管の機関より教育研究装置等
施設整備費の助成を受けた研究の報告書である。導
入年度から 2 年間で得られた成果を要約する。原則
として 2 頁。

（７）建築学研究所共同研究報告

建築学研究所より研究費の助成を受けた研究の報
告書である。共同研究 A・B 共に前年度の成果を要
約するが、研究期間 2 年の共同研究 A の場合、2 年
目の成果は次年度の建築学研究で要約する。原則と
して共同研究 A・B 共に 4 頁。

（８）建築学研究所プロジェクト研究報告

建築学研究所の事業であるプロジェクト研究

A・B・C の制度を利用して実施された研究の報告書である。プロジェクト研究の種類によらず、前年度の成果を要約する。原則として 2 頁。

(9) 随想

建築学分野を専攻する教職員の研究・開発等の思い出、意見、感想、経験談等を綴った記事である。原則として 4 頁。

(10) 研究紹介

前年度 4 月から当該年度の 3 月末までの建築学部各研究室の研究分野および研究活動、講演会記録、および前年度の博士論文、修士論文、卒業論文を体系的にまとめた記事である。頁数は任意。

(11) 研究室紹介

当該年度の建築学部各研究室の研究活動を紹介する。頁数は任意。

(12) 建築学内イベント

前年度の建築学研究所活動状況をまとめた記事である。頁数は任意。

(13) その他、編集委員会が設けた特別記事
記事の詳細は編集委員会が必要に応じて定める。

6. 原稿の作成および提出

(1) 原稿は本規程および編集委員会が提供する『神奈川大学建築学研究』原稿執筆要領に基づき作成する。

(2) 用語は和文、英文どちらも可とする。ただし、和文原稿については英文目次作成のため、原稿には英文題目の他、著者氏名および職名・所属の英文名をつける。

(3) 著者自身の公表済み著作物については、原稿中で出所を明示する等の正当な措置を講じること(著作権法第 32 条および第 48 条)により引用することができる。

(4) 原稿は神奈川大学建築学研究所事務局に提出する。そこで受理した日を原稿受付日とする。

(5) 原稿の提出期限は各年度により定める。

(6) 原稿の提出は、Word、PDF 等の電子データで行う。

(7) 図版や特殊文字等に関する編集上の注意事項がある原稿については、電子データに添えて詳細を朱書きした出力原稿を合わせて提出する。

7. 原稿の責任と権利

(1) 原稿に記載する資料の中で著作権に関わるものがある場合は、著者が自らの責任(費用を含む)で事前に許諾を得ることとする。

(2) 前号に示した許諾には、論文等の電子化およびインターネット公開に関わる掲載許可も含むものとする。

(3) 記事の著作権・編集出版権(複製権、公衆送信権)は神奈川大学建築学研究所に属する。

(4) 著者は記事が神奈川大学学術機関リポジトリにおいてインターネット公開されることに同意する。

8. 不正行為への対応

(1) 提出された原稿、または記事に神奈川大学における研究に係る不正行為等の防止及び対応に関する規程(以下、不正行為規程という)第 2 条第 5 項各号に掲げる不正行為に該当する疑義が生じ、別に定める不正行為に対する編集委員会取り扱い内規に定める手続きを経て、編集委員会が不正行為に該当する事実があると認定した場合、編集委員会は不正行為規程第 25 条「論文等の取り下げ等の勧告」に準じ、著者に対し、当該原稿については以下 i) または ii) の処分、また当該記事については以下 iii) および iv) の処分を行う場合がある。

i) 当該原稿の書き直しの指示

ii) 当該原稿の不採録

iii) 当該記事の掲載取り消し

iv) 編集委員会が不正行為の程度に応じて決定した期間の本誌への投稿禁止

(2) 提出された原稿、または記事に倫理綱領に定める研究倫理の理念と研究者の行動規範からの逸脱が著しい等の重大な不正行為に該当する事実があると本学当局が認定した場合、当該原稿または記事の著者は、前項各号の処分の他、本学当局より学内諸規程にのっとった罰則を科される場合がある。

9. 校正

(1) 校正は原則として初校までとする。

(2) 投稿原稿は完成原稿とし、原則として校正時の文言の一部修正のような軽微な修正以外、内容修正は認めない。

10. 抜刷・その他

(1) 抜刷は発行しないが、希望する著者には本誌の PDF 版を提供する。

(2) 原稿の枚数が第 5 条に定める規定限度を大幅に超過する場合は編集委員会の承認を要するが、状況により超過分の実費を徴することがある。